

市では、新聞を教育活動に活用し、情報活用能力などの向上を図るとともに、将来の主権者としての社会的資質の基礎を養うことを目的に、市立小・中学校23校に全国紙1紙、地方紙2紙を配布するほか、タブレット端末を使った一部電子版の購読（ハイブリッド式購読）も行っています。今号では、紙面と電子版、どちらのよさも生かしながら積極的に新聞を活用している2校の児童・生徒と先生へのインタビューを紹介します。

大深内小学校

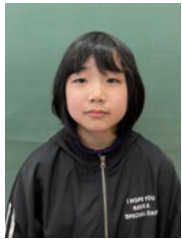


《立崎 友那さん（6年）》

約一年半「気になるニュース」を書いて、興味がなかった分野に目を向ける機会になりました。どのニュースにしようか新聞から探すことで、いろいろな記事に触れることができました。これからも、新聞を読んでいきたいと思います。



教室に新聞を設置するほか、授業でも具体的な資料として活用



《母良田 ゆあさん（6年）》

「気になるニュース」を書いて、今まで読めなかった漢字が読めるようになったり、知らなかった言葉を知ることができたりしました。自分の語彙が増え、知識も増えたことで、世の中により関心をもてるようになりました。



気になるニュースを集めよう

「気になるニュース」記事の切りぬきに感想を添えて、帰りの会で発表



《新館 優歩先生》

興味・関心を広げてほしいという思いで、「気になるニュース」の取り組みを始めました。最初は、1面からしか記事を選んでいなかった児童たちが、徐々に新聞をめくるようになり、政治面や国際社会面、地域面などからも選ぶようになりました。スマートフォンなどでは、おすすめ機能により、興味があるものばかりに触れがちですが、さまざまな分野に触れるよい機会になってほしいと思います。

四和中学校



《工藤 翔空さん（3年）》

新聞を読んでいると自分の関心がなかった記事にも自然と目が行き、新たな知識が増えてきたと感じています。また、朝の会でニュースを発表する時、どのような言葉を使ってどのように伝えたらみんなが理解できるか、よく考えるようになりました。



いつでも自由に読めるように教室や廊下、図書室などに新聞を設置



《出町 栞さん（3年）》

中高生新聞は、私たちの年代に合わせた内容のため気軽に読むことができます。最近は帰宅してから新聞を読むようになったからか、自分の興味の幅が広がってきているとともに、文章を読む速さが向上したのを実感しています。

タブレット端末で電子版を読む



朝の会で紹介するために、自分が興味を持った記事について要約

《野月 義之 教頭先生》

新聞には幅広い分野の情報が分かりやすく掲載されているため、生徒たちは新しい知識を身に付けたり、新たな気づきが得られたりしているようです。また、語彙力を伸ばし伝達力を磨くなど言語能力の育成にも寄与すると感じています。今後も生徒たちが日常的に新聞を活用できる環境を整え、学びの機会を提供したいと考えています。

こども新聞の記事を小学生に紹介

